じごぜんひろば

No.97　2020年（令和2年）1月1日　地御前地区自治会

地御前の夜明け　撮影：京野 達也さん

新年あけましておめでとうございます

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます

令和二年 元旦

地御前地区自治会

第3回地御前ウォークラリー開催

第3回地御前ウォークラリーが地御前地区自治会青少年事業部主催により11月16日（土）に開催されました。18チーム、総勢85名の小学生や親子が参加しました。

地御前市民センターで開会行事をし、ルール説明などを受けて、ゲームがスタートしました。地御前小学校グラウンドに移動して、靴飛ばしゲーム、言葉集めゲーム、的当てゲーム、豆つかみゲーム、なぞなぞ・クイズ等をして得点を競いました。

靴飛ばしゲームは、普段ならこんなことは見つかれば即やめさせられるような遊びです。そのためか、うまく遠くに飛ばせない子どもがほとんどでした。地御前の子どもたちの行儀の良さがわかるゲームになりました。

言葉集めゲームは、箱から引いたひらがな一文字が頭文字になる単語を、チームの全員が制限時間内に応えるゲームです。「さ」→さかな、さば、さんま、さめ、たい、あなご・・・？あるチームはいつの間にか「魚しばり」に変わってしまって大爆笑になりました。小学生の語彙の中から繰り出される単語が意外に面白いものでした。

学校敷地内に隠したなぞなぞを見つけて答えるゲームも楽しみました。「おじいさんとする球技は何ですか？」→ソフトボール（祖父とボール）

ゲームを終え、地御前市民センターに戻って表彰式を行い、上位5チームが賞品のお菓子を受け取りました。一昨年、昨年に引き続き天候に恵まれ、ゲームをして楽しいひとときを過ごし、親睦を深める良い機会になりました。

的当てゲームのようす

地御前の秋の夜長に 大歳神社の神楽奉納

10月13日の大歳神社秋季大祭の余頃（よごろ＝前夜）に水内（みのち）神楽団による「神楽」が奉納され、多くの老若男女が集まり、秋の夜長を堪能した。神楽は午後8時から始まり、4つの演目が披露され、深夜12時頃までに及んだ。少し肌寒さも感じる夜だったが、最終演目の「八岐大蛇」（やまたのおろち）を鑑賞するべく、多くの人が最後まで境内に留まった。

神楽の舞は実に見ごたえのあるものだった。舞台の広さに応じて、ものの見事に演目が披露される。二人の演者があれだけグルグル回ってよくぶつからないものだと技量に関心をした。剣をかざして舞う舞は、まさにスタント技だ。ふと観客に目をやると、3・4才くらいの男の子が真似をしてグルグルと回って踊っていた。伝統芸能というものはこんなふうに継承されて本物が存続するものなのだろうと思った。

長い時間、神楽独特のお囃子に包まれていると、週末のディスコで夜通し踊る若者と昔の若者の共通点を垣間見る思いがした。当然、ディスコの興奮や喧騒に信仰は無関係だが、「神楽」は神に捧げるという信仰に結び付けて行われている点に、この伝統芸能の、どこか寛容な懐深さを感じる。また2年後の出会いが楽しみだ。

先人の思いを推しはかる 地御前歴史講座

11月30日（土）10時から、地御前市民センター企画運営委員会の主催で、舩附洋子さんを講師にお迎えし、「知られざる地御前と宮島をひも解く」と題して歴史講座が行われました。地御前やその近郊から約60名以上の受講者が参加しました。

宮島と地御前の深い関り、厳島神社、地御前神社、大鳥居などの起源から近代に至るまでの歴史的な経緯などを、親しみやすい語り口で教えて下さいました。たくさんの内容が網羅され、途中休憩の時間も惜しんでの講演でしたが、あっという間の90分でした。

老朽化して倒壊した地御前神社の拝殿、本殿幣殿を、宮田文輔が私財を投じて大正3年に再建したそうです。

現在大改修中の大鳥居ですが、昭和25年に行われた大改修の際の仮設足場や陸から資材を運ぶために架けられた傾斜路の写真が紹介されました。現在の工事の様子とも比較して、当時は戦後の、何もかもが不足し、疲弊している状況で行われた工事であったことや、いかに多くの熱意が注がれた事業であったかを伺いました。そんな大鳥居ですが、実は解体撤去される危機があったことも紹介されました。明治新政府の神仏分離政策に伴う大鳥居の解体命令に対して、当時の宮司（現在の野阪宮司の曽祖父）が決死の覚悟で存続に向けて政府に陳情し、交渉を重ねたことを知りました。

地御前神社や大鳥居、その他の歴史的建造物が存在する裏側には、長い歴史のうちにあった幾多の災害や問題を乗り越えた事実が存在します。またそれら多くの困難を乗り越えた原動力は、各々の時代の人々の、未来に託す強い意志なのです。是非、地元の人たちにはその歴史の裏側にあるそれらの先人の思いを知って欲しい…と舩附さんは熱意を込めてお話しされました。今を生きる私たちに、とても大切な、新しい視点を持たせてくれました。まさしく「温故知新」のすばらしい歴史講座でした。

トピックス

ご存知でしょうか。シティブランド・ランキング　住みよい街2019　全国の働く世代2万人に聞いた本音の「住みよさ」ランキング（日経BP総研の調査）で、廿日市市が中国・四国地方で1位（全国では30位）に挙げられました。「安心・安全」「快適な暮らし」「生活の利便性」「生活インフラ」「医療・介護」「子育て」「自治体の運営」「街の活力」の8分野、合計38の評価項目を調査・集計した結果です。なんだか嬉しいですね。

編集後記

▼新しい年も、いろいろな経験や出会いを通じて、新しい視点、より広い視野を得るだろう。新たな気づき、新たな共感は、自身の一部が新しく生まれ変わるようなもの、消耗部品の交換だ。体だけでなく、心もメンテナンス。▼神楽のお囃子は深夜まで続いた。ご近所の方々は…。ラジオ体操が近隣の苦情でできなくなる昨今。日頃からのつながりやお互いの感謝と思いやりが大切。▼「子はかすがい」と言うが、夫婦だけでなく、他人同士や異なる世代、地域全体もつないでくれる存在だと思う。あなたも見守り隊に登録しませんか？▼ついでに自治会広報事業部の部員になりませんか？投稿大歓迎！

（J・K）

［発行］地御前市民センター内
地御前地区自治会　広報事業部

堀中町・堀新町町内会 合同敬老会開催

堀新町町内会長・中元和夫

10月6日（日）に、令和元年の敬老行事として、堀中町・堀新町町内会合同敬老会を堀集会所にて開催しました。これは、昨年に引き続き2回目の開催となります。約一カ月の準備期間を経て実施の運びとなりました。

当日は、両町内会のご長寿対象者の方々から14名の方に出席して頂き、加えて地御前長寿連合会・井出会長、堀長寿会・中村会長及び林市議会議員の来賓の方々にも出席頂きました。

最初に、来賓のJA広島総合病院・中島薬剤科長から「お薬よろず相談」と題して、高齢者の健康と処方薬の服用などに関する講演をして頂き、出席者全員で記念写真撮影を行って、食事会を開催しました。

昼食を頂きながら、カラオケ大会も行いつつ、長寿者の方々や他の出席者の方々でお互いの親睦を深めつつ、楽しく懇談して楽しい時間を過ごすことができました。会の進行に合わせて出席の皆さんのスナップ写真の撮影も行い、後日幹事から皆さんに写真を配布させて頂きました。なお、敬老会の記念品として欠席の方も含めてご長寿の方全員にお菓子を配らせて頂きました。昨年に比べますと、フラダンスや手品といったアトラクションはありませんでしたが、皆さんに楽しんで頂けたのではないかと思います。 最後になりますが、敬老会の開催にご協力頂いたご来賓の方及び両町内会準備委員の方に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

今年の会は、対象者のうち16名と民生委員、町内会役員の出席で開催された。出席者最長老は99歳。皆で互いの長寿をお祝いし乾杯。近況報告と懇親のおしゃべりで大いに盛り上がった。その後、ゲームや、参加者のハーモニカ伴奏により、懐かしい歌を大合唱して、楽しい時間が過ごされた。

出席の方からは「毎年楽しみにしています」「久しぶりに大きな声で歌いました」「懐かしい方にも普段はなかなかお会いできませんので、いい機会です」等々の声が聴かれた。町内会長は「毎年の恒例ですが、それだけに今年はどんな内容にするか知恵を絞るのが大変です」と。

「敬老の集い」と「子供会」の3世代交流コラボ

三景園町内会・木佐隆明

10月27日（日）12時から三景園町内会の「敬老の集い」が地御前北二丁目集会所で開催された。三景園町内会では、以前から町内会独自の敬老会が毎年開催されてきたが、町内会の立地がバイパスの北側で、地御前地区自治会主催の敬老会への出席が難しい方も居られたためと言われる。

今年のトピックスは、子供会の行事「ハロウィン」にコラボして行われたことである。これは、関係者の中から「同じ町内に住んでいても、高齢者世帯と若い世帯との交流がない」との意見が出され、子供会と相談し実施となった。そして、前日26日（土）、子供たちが仮装して数人毎のグループになって、町内の高齢者宅をそれぞれ10軒訪問し、お菓子を貰い、そこでは明るく大きな声の会話が交わされていた。こうした同世代間・異世代間の交流が契機となってつながりが広がると共に、一層明るい地域になることが期待されている。

地域の安心・信頼・心をつなぐ 通学路の見守り隊

青少年事業部　桐林　潤

平成16年（2004年）10月の平良での女子高生殺害事件や、平成17年11月の広島市安芸区での下校中の女子児童殺害事件などを受け、全国的に子どもの安全についての地域ぐるみの取り組みが一層注目され、広まり始めました。

地御前では小学校、PTA、長寿会、自治会で協議を重ね、平成18年に通学路の見守り隊が発足し、活動を開始しました。それ以来毎日、ボランティアで児童たちへの声掛け活動が地域ぐるみで続けられています。

通学路での児童と見守り隊の皆さんとの日々の小さな交流は、大きな安心・信頼につながっています。黄緑色のジャケットは安心・信頼のしるしです。忘れ物に途中で気づいて走って引き返して来た児童に、「ここにランドセルを置いて行きんちゃい。待っといてあげるから」と助けて下さった方もおられます。毎日、何人もの児童たちと笑顔でハイタッチやジャンケンをして下さる方もおられます。その日のげん担ぎや占いのようにして、楽しみにやっている児童もきっといることでしょう。

見守り隊の方からの「おはよう」の声掛けに対して、女の子が挨拶を返さなかったのをたまたま見たことがありました。申し訳ないと思って、その見守り隊の方に私が謝ると「あの子はおとなしくて内気な子だからいいんですよ」と話して下さいました。その方は、親とは違う優しい目線で、子どもたちの成長を見守って下さっている良き理解者なのだと気づかされ、子どもの成長を見守る温かい連帯感を感じました。

名前を呼んで「○○くんおはよう！」「○○ちゃんおはよう！」と挨拶をして下さったり、「あ、髪を切ったんじゃね」とか「風邪は治ったの？」とひとりひとりへの関心を伝えて下さる見守り隊もおられます。見守り隊の活動を楽しんでして下さっていることが子どもたちに伝わっていると思います。

子どもたちにとって、親や先生以外の大人と接したり、信頼関係を築く機会が減っている昨今にあって、この見守り隊の地道な活動は、個人にとっても地域にとってもたいへん意義深いものだと思います。

しかしこの活動も12年目を迎え、さすがにご高齢で立哨が続けられなくなった方々が増えてきました。小学校PTAを通じて募集をしても、加入したら抜けられなくなるのでは…という不安や誤解があったり、関わり合う意識の低下などから、登録メンバーは発足時の約半分になってしまいました。発足当初から、見守り隊の活動は「気楽に、気長に、気持ちよく」をモットーに行われています。地御前でのこの見守り活動を維持・継続できるよう、皆さんのご理解、ご協力を是非よろしくお願い致します。

野良猫0を目指して

地域猫活動が始まり、市から3件の依頼があった。その依頼者のお一人がヘルパーさんで、軽い認知症の一人暮らしの高齢女性を心配してのことだ。家の中には飼い猫が一匹だが、野良猫が庭先に来てほっておく事が出来ず、餌を与えているうちに子猫が生まれて10匹くらいに増えた。犬や猫を家族同様に可愛がっている人は、人としてほってはおけないのが普通であるが、野良猫に餌を与えるのは悪い、余計な事だと思っている猫の嫌いな人こそ協力をしてほしい。

愛玩動物の存在は一人でいる人たちにとっては生きてゆく心の支えではあるが、周り近所でのトラブルに発展しないためにも早めの処置が必要不可欠である。自治体での地域猫の対策課と思っていた私達ですが、活動費は自腹での作業。皆さんからの活動支援金を宜しくお願いします。

〈連絡先〉
TEL 080-2890-1050
地域猫活動代表　梶上 政人